

2021 年度（令和 3 年度）

本報告書は、専修学校における学校評価ガイドラインに基づき学校法人巨樹の会 福岡看護専門学校 学校関係者評価委員会の評価結果を記したものである。

## 学校関係者評価 報告書

2022 年 7 月 1 日

学校法人巨樹の会  
福岡看護専門学校第2科

学 校 長 松原 孝俊  
副学校長 淀川 めぐみ(学校評価実施責任者)  
第2科教務部長 萩尾 奈津子

### <目次>

1. 学校関係者評価の概要と実施状況
  - 1) 学校関係者評価の目的、方針
  - 2) 学校関係者評価委員
  - 3) 学校関係者評価委員会の開催
  - 4) 学校関係者評価の実施
  
2. 学校関係者評価の内容
  - 項目Ⅰ 教育理念、教育目的・目標、人材育成像
  - 項目Ⅱ 学校運営
  - 項目Ⅲ 教育活動
  - 項目Ⅳ 学修成果
  - 項目Ⅴ 学生支援
  - 項目Ⅵ 教育環境
  - 項目Ⅶ 学生募集
  - 項目Ⅷ 財務
  - 項目Ⅷ 法令等の遵守
  - 項目Ⅸ 社会貢献、地域貢献

## 1. 学校関係者評価の概要と実施状況

### 1) 学校関係者評価の目的、方針

- ① 関係業界・職能団体、高等学校、卒業生、学生保護者、地域住民などの学校関係者が、本校の自己評価の結果を評価することで、その妥当性を確認し、客観性・透明性を高めることを目的とする。
- ② 学校関係者評価により、本校の学校運営・教育活動における課題を明確にし、その意見を参考に学校運営の改善を図る。
- ③ 学校関係者評価は、本校の自己評価を基に、「専修学校における学校評価ガイドライン」、及び本校の学校評価実施規程に則り実施する。

### 2) 学校関係者評価委員

評価日 令和4年3月23日現在

委員氏名	所属	選出区分
西村 由紀子	元純真学園大学 保健医療学部 看護学科長 教授	専門家等評価委員
早川 明美	福岡和白病院看護部長	企業等委員
荒木 礼子	福岡県立糸島高等学校 校長	高校等評価委員
後藤 歩	福岡県済生会二日市病院 看護師	卒業生委員
松岡 美紀	福岡和白病院 看護主任	保護者・地域委員

※敬称略、順不同

### 3) 学校関係者評価委員会の開催

第1回委員会 日 時:令和3年9月29日(水) 15:00～17:00

場 所:福岡看護専門学校 会議室

第2回委員会 日 時:令和4年3月23日(水) 15:00～17:00

場 所:福岡看護専門学校 会議室

### 4) 学校関係者評価の実施

令和3年度の自己評価に基づき、評価結果の妥当性を確認し、課題や改善が望まれる項目、その解決の方向性について、下記のポイントに留意しながら評価を行った。

- ① 自己評価の結果及び内容が適切かどうか
- ② 課題やその解決への方向性が適切かどうか
- ③ 学校の運営改善に向けた取り組みが適切かどうか
- ④ 学校の運営に関する助言

## 2. 学校関係者評価の内容

学校関係者評価、自己評価に共通して、各項目の評価は下記に示す達成度による4段階の評定基準にて実施する。

### 【評定基準】

- S : 達成度がきわめて高い (達成度が高い)  
 A : ほぼ達成している (概ね達成しており、明らかな改善は要しない)  
 B : 達成がやや不十分である (若干の改善を要する)  
 C : 達成が不十分である (不適合がある、明らかに改善を要する)

## 項目Ⅰ 教育理念、教育目的・目標、人材育成像

### 総括

学校の教育理念に沿った教育目的・目標はホームページで公表している。学生には学生便覧に教育理念、目的、目標を明示しており、各学年の開始時や臨地実習のオリエンテーションで意識できるように説明している。実習施設には、実習要項を用いて実習目標と実習内容を説明している。また、実習指導者会議等で教育理念を踏まえた学習修得の依頼をしている。

COVID-19 感染状況により実習形態や実習内容を変更した領域もあり、実習施設には変更内容を説明して協力を得た。

学生に求められている実践力、コミュニケーション力、アセスメント力を育てるために、2年次の基礎看護学Ⅵの講義で事例を提示して学習した後に演習に臨んだ。3年次の臨床看護の実践の講義では演習時に多重課題や状態変化を設定してアセスメント力や実践力を育てる内容とした。

卒業時満足度調査では、「教育理念に沿った教育を受けられた」は100%の学生がそう思う、「教育方針や校風に共感することができ満足している」は95%の学生がそう思う、「専門的な知識が身につく授業であり満足している」は98%の学生がそう思う、「専門的な技術が身につく授業であり満足している」は98%の学生がそう思うという結果であった。

### 課題及び今後の改善方策

卒業時の看護技術到達度の低い項目について、学内または臨地実習で経験できるようにする。年度初めに2年次の教育目標達成度自己評価を実施して、教育目標の達成に繋げる。年度初めに看護技術達成度アンケート(142項目)を実施して現在の到達度を把握する。その後アンケート結果を臨地実習の技術経験表と共に携帯して、常に意識できるようにして目標達成に繋げる。

### 学校関係者評価委員会からの意見

学習の進度に応じて理念や目標を説明することで、内容の理解も深まる。看護技術到達度は学生が常に意識できるとよい。

### 小項目Ⅰ-1

教育理念・目的・目標、人材育成像は定められているか

■自己評価：S ■学校関係者評価：適正

■コメント：学生便覧、ホームページ等で広く公表し、周知している。

### 小項目Ⅰ-2

教育理念・目的・目標、人材育成像、特色などが、学生・保護者、関係業界(高校、病院、実習施設など)に周知されているか

■自己評価：S ■学校関係者評価：適正

■コメント：学生便覧、ホームページ等で広く公表し、周知している。

### 小項目Ⅰ-3

教育目的・目標、人材育成像は、対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか

■自己評価：S ■学校関係者評価：適正

■コメント：学生に求められている実践力、コミュニケーション力、アセスメント力を育てるために、事例を用いて演習を取り入れている。演習は録画してリフレクションに活用した。映像を見ることで良かった点や課題を明確にすることができた。

## 項目Ⅱ 学校運営

### 総括

学校法人巨樹の会の事業目標・学校の事業方針をもとに管理目標を設定している。管理目標は各科で具体的な目標を立てて取り組んでいる。また管理目標は教員個人のキャリア別達成目標に繋げており、各自重点目標を立てて取り組み、自己評価をして目標達成に繋げることができている。

教職員の組織図、会議、委員会の設置がされており、各委員は年度初めに目標と活動内容を設定して取り組み年度末に評価している。各委員の計画と評価は合同教員会議を開催して報告している。会議は定期的実施されており、議事録を作成して周知されている。

### 課題及び今後の改善方策

継続して、管理目標の設定と評価を行い学校運営に取り組む。

### 学校関係者評価委員会からの意見

特になし

### 小項目Ⅱ-1

教育理念・目的・目標等に沿った運営方針が策定されているか。

■自己評価：S ■学校関係者評価：適正

■コメント：教職員の組織図、会議、委員会の設置がされており、委員会の運営は規定通りに実施されている。また、議事録を作成して周知されている。

### 小項目Ⅱ-2

運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか。

■自己評価：S ■学校関係者評価：適正

■コメント：学校組織と諸会議規程は明確になっており、就業規則、学生便覧に示されている。規則の変更がある場合も教職員に通達があり周知されている。諸規程は各科で保管しており、閲覧できるようにしている。

### 小項目Ⅱ-3

情報システム化等による業務の効率化が図られているか。

■自己評価：A ■学校関係者評価：適正

■コメント:学校全体の共有フォルダは様々な規程や書類が使用できるようになっており、業務の効率化が図れている。各科の共有フォルダは教員相互で利用する資料を載せており、情報共有できている。学事システムは教務事務が学生の成績管理を行っており、セキュリティ管理されている。欠課時間はクラス担当教員が確認し、教務事務が入力管理している。

## 項目Ⅲ 教育活動

### 総括

学生便覧に教育課程、カリキュラムを明示している。学生には学生便覧とシラバスをもとに、カリキュラムと授業計画を説明している。内部教員の授業に関してはシラバスに各回の授業内容の掲載ができています。

臨地実習では実習指導者と連携してタイムリーな指導を依頼している。学生の援助後はリフレクションを行い、学びや課題が明確になるよう働きかけている。COVID-19 の感染拡大により一部代替実習に変更となった。学内での代替実習では各領域で学ぶべき内容を整理して必要な学習を組み立てた。また各領域の特性をイメージできるように必要に応じて視覚教材を用いた。学内実習とした領域はそれぞれ学習目標に沿った演習を取り入れた。実習評価はルーブリックを用いており、実習方法の変更内容に応じてルーブリックを修正し、実習目標が達成できるよう努めた。

カリキュラムはコロナ禍で日程変更した科目もあったが、計画通りに進行できた。

国家試験対策については、例年3年生が必修問題の点数が取れないため、2年次より必修問題に取り組んだ。3年生は合格に向けて年間計画を立てて取り組んだ。COVID-19 の感染拡大により、年度初めと後期の1月・2月は自宅学習となった。模擬試験についてもオンラインで繋ぎ自宅受験としたが、問題はなかった。

授業評価については、外部講師は許可を得て学生からの評価をとり、結果を講師へ伝えている。内部教員は全員終講時に学生にアンケート調査を実施し、評価を受けて教育活動の達成度の把握と課題を明確にしている。授業評価の結果は一定期間教室に掲示して学生に公表し、フィードバックをしている。一部の教員は授業評価に対してコメントを付けたものを掲示した。

卒業時満足度調査では、「実習での教育・指導体制に満足している」は100%の学生がそう思うという結果であった。また「国家試験対策、学習支援に満足している」は89%の学生がそう思うという結果であった。

### 課題及び今後の改善方策

継続して、キャリア教育・実践的な職業教育が実施できるよう教育方法の工夫を行う。

2年生の必修問題の取り組みの評価は、3年次の模擬試験でみていく。

### 学校関係者評価委員会からの意見

2年生の必修問題の取り組みについては、成績の変化の分析が必要。

### 小項目Ⅲ-1

教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか。

■自己評価: S ■学校関係者評価: 適正

■コメント:学生便覧に教育課程、カリキュラムを明示している。学生には学生便覧とシラバスをもとに、カリキュラムと授業計画を説明している。内部教員の授業に関してはシラバスに各回の授業内容の掲載をしている。

### 小項目Ⅲ-2

キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか。

■自己評価: S ■学校関係者評価: 適正

■コメント:専門性の高い看護技術に関しては、演習を交えた講義を行っている。在宅看護論Ⅱの講義では、卒業時に技術の到達度が低い「ストーマ管理」「人工呼吸器管理」について、訪問看護利用者に承諾を得て動画撮影をさせて頂き、教材として活用した。

### 小項目Ⅲ-3

授業評価の実施・評価体制はあるか。

■自己評価: A ■学校関係者評価: 適正

■コメント:授業評価をもとに、次年度に向けて改善できるよう取り組んでいる。授業評価結果は一定期間教室に掲示して学生にフィードバックしている。

### 小項目Ⅲ-4

資格取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか。

■自己評価: S ■学校関係者評価: 適正

■コメント:国家試験合格に向けて、年間計画を立てて取り組んでいる。

### 小項目Ⅲ-5

関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など、資質向上のための取組みが行われているか。

■自己評価: A ■学校関係者評価: 適正

■コメント:研修参加の費用負担が学校規程で定められているが、半数の参加にとどまった。年度初めにキャリア別達成目標を立案し、自身の目標を立てて1年間取り組んだ。中間と年度末に評価を行い、管理者が面談を実施した。

## 項目Ⅳ 学修成果

### 総括

就職支援の窓口をクラス担当教員と教務部長と明確にし、学生と個人面談を実施して相談にのるようにした。関連病院はオンラインで病院説明会を実施してもらった。COVID-19の感染拡大の影響で就職説明会やインターンシップの開催が少なく、就職先に迷う学生が多かった。中には就職先が中々決まらない学生もいたが、クラス担当教員が相談にのり、1月までに全員の進路が決定した。関連病院への就職率は63.4%と例年より多かった。卒業時満足度調査では「就職活動や進学に関するサポートに満足している」は95%の学生がそう思うという結果で、昨年に比べると22%上昇していた。

国家試験合格に向けて成績把握を行い、必要に応じて個別学習を実施した。1月よりCOVID-19の感染予防策として自宅学習に切り替えたため、個別学習が必要な学生は人数を絞りオンラインで学習を行った。国家試験の受験予定者全員が受験できた。卒業時満足度調査では「国家試験への対策、学習支援に満足している」はそう思うが89%で、昨年に比べて7%下がっていた。

各学年年度初めに個人面談を実施し、学生個々の把握を行っている。学生の状況により、相談にのるようにしており、保護者との連携も図るなどして、退学率の低減に努めている。今年度は2年生が2名退学し、進級率は96%であった。3年生は今年度の退学者はおらず3年間で5名が退学し、卒業率は90%であった。

学生の社会的な活動の把握と本校の教育内容の評価と今後に繋げるために、卒業生(看護師1年経過)にアンケートを実施し、カリキュラム評価の示唆を得ることと、卒業生の状況把握に繋がった。しかし、回収率が15.8%と低かった。

#### 課題及び今後の改善方策

全員の進路が決定するよう学生の希望する進路に向けて支援を継続する。

国家試験の全員合格に向けて計画的な学習と支援を継続する。

#### 学校関係者評価委員会からの意見

卒業生のアンケートの回収率が低いのに理由はないのか。アンケートをWebで実施すると回収率が上がるのではないか。

#### 小項目 IV-1

就職率の向上が図られているか。

■自己評価: S ■学校関係者評価: 適正

■コメント: 卒業時満足度調査では「就職活動や進学に関するサポートに満足している」は95%の学生がそう思うという結果で、昨年に比べると22%上昇していた。

#### 小項目 IV-2

国家試験合格率の向上が図られているか。

■自己評価: S ■学校関係者評価: 適正

■コメント: 卒業時満足度調査では「国家試験への対策、学習支援に満足している」は89%がそう思うという結果で昨年より7%下がっていた。国家試験の合格率は97.6%であった。

#### 小項目 IV-3

退学率の低減が図られているか。

■自己評価: A ■学校関係者評価: 適正

■コメント: 2年生は今年度2名の学生が退学した。退学理由は1名は学力不足で、もう1名は家庭の事情であった。3年生は今年度は退学者はおらず3年間で5名退学している。今後も個別の対応とサポートを行っていく。

#### 小項目 IV-4

学生の社会的な活動を把握しているか。

■自己評価: A ■学校関係者評価: 適正

■コメント: 卒業生の社会的な活動の把握と本校の教育内容の評価を行い、今後に繋げるためにアンケート調査を実施した。しかし回収率が低かったため、調査方法を検討する。

## 項目 V 学生支援

#### 総括

各学年年度初めにクラス担当教員が個人面談を実施して学生の状況把握に努めた。学生相談については、主にクラス担当教員が行うが、複数担当制をとっており、複数の教員で対応している。学生には相談等がある際はいつでも教務室へ来て構わないことを説明しており、教員は学生が相談しやすい雰囲気を中心掛けている。スクールカウンセラーを2名(非常勤)配置しており、カウンセリングが必要と考えた学生については、学生に合ったカウンセラーを勧めている。

保護者との連携が必要な学生に関しては、学生に了解を得て保護者に連絡を取り、学生支援を行っている。また、前期・後期で、学生の成績表を保護者に郵送しており、成績表と共に学生の学校生活状況の報告を行っている。

その他、奨学金窓口や学費相談の事務担当を設けており、学生の相談に乗るようしている。また、殆どの学生が就業しながら学校に通っているため、状況に応じて車通学を許可している。卒業時満足度調査では「教職員の学生への対応に満足している」は100%の学生がそう思うという結果であった。

#### 課題及び今後の改善方策

継続して、修学支援が必要な学生に対しては、個別の相談にのり必要な支援を行う。

#### 学校関係者評価委員会からの意見

特になし

#### 小項目 V-1

進路・就職に関する支援体制は整備されているか。

■自己評価: S ■学校関係者評価: 適正



■コメント:進路については面談と定期的な調査で把握し、進路に悩んでいる学生に関しては、個別の相談にのるようにしており、1月中旬に全員が進路を決定した。

#### 小項目 V-2

学生相談に関する体制は整備されているか。

■自己評価: S ■学校関係者評価: 適正

■コメント:教員は複数担当制をとっており、相談しやすいよう関係構築に努めた。卒業時満足度調査では「教職員の学生への対応に満足している」は100%の学生がそう思うという高い結果であった。

今年度スクールカウンセリングは2~3名の学生が利用していた。

#### 小項目 V-3

保護者と適切に連携しているか。

■自己評価: S ■学校関係者評価: 適正

■コメント:保護者との連携が必要と考えた学生に関しては、早期に保護者と連絡をとるよう努めた。保護者と関わることで、学生の悩みの本質が理解できることもあり、修学支援に繋がったと考える。

前期・後期に学生の成績表を保護者に発送しており、その際に学生の状況を伝える文書を添えている。

#### 小項目 V-4

高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組みが行われているか。

■自己評価: A ■学校関係者評価: 適正

■コメント:入学停止のため学校訪問は実施していない。在校生の状況で必要があれば、卒業した准看護師養成学校の先生と情報交換をしている。

#### 小項目 V-5

修学支援体制が整っているか。

■自己評価: S ■学校関係者評価: 適正

■コメント:奨学金窓口、学費相談などの事務担当を設けており、教員と連携してサポートしている。校納金の支払いについて、必要な学生には相談にのっている。

奨学金は全体の半数程度の学生が利用している。専門実践教育訓練給付金制度の指定を受けており、全体の3割程度の学生が対象となっている。

学生の殆どが就業しているため、通学の相談にのり、必要な学生には車通学を許可している。学生アパートを利用している学生がおり、教職員でサポートしている。

## 項目VI 教育環境

### 総括

学内のWi-Fi環境は整っており授業等で困ることはない。昨年に引き続きCOVID-19の感染拡大

により自宅学習を取り入れた時期もあったが、オンラインシステムも整っており問題なかった。

新校舎の工事に伴う騒音については、学生に事前に説明し、大きな音が発生する場合は平日を避けてもらうなど学習環境を保てるようにした。

図書の蔵書に関しては、12月に新校舎に図書館ができ、図書が充実した。

#### 課題及び今後の改善方策

3校が共有して校舎を使用するため、3校で調整して学生の学習環境を整える。

#### 学校関係者評価委員会からの意見

特になし

#### 小項目 VI-1

施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか。

■自己評価: A ■学校関係者評価: 適正

■コメント:卒業時の満足度調査で「パソコン・インターネット等の情報整備や利用環境に満足している」は95%の学生がそう思うという結果であった。「学習するための図書の蔵書に満足している」は93%の学生がそう思うという結果であった。学習スペースについては、新校舎の図書館や少人数で使用できる部屋が利用できたことで高い結果であったと思われる。

#### 小項目 VI-2

学内外の実習施設等について十分な教育体制を整備しているか。

■自己評価: S ■学校関係者評価: 適正

■コメント:実習の意義、位置づけは実習要項に記載しており、実習施設には実習要項を用いて説明を行っている。内容の周知は、実習指導者会議を開催して説明している。変更等が必要な場合は、実習施設に説明して了解を得ている。実習評価はルーブリックを用いており、学生にも目標が明確になっている。

主たる実習施設では、学生が学習できるスペースの確保、電子カルテ閲覧時間の確保など対応してもらっている。

#### 小項目 VI-3

防災に対する体制は整備されているか。

■自己評価: A ■学校関係者評価: 適正

■コメント:災害時の行動は、学生便覧に記載している。9月に防災訓練を計画したが、学校が工事中であったことと、COVID-19の感染拡大予防として各科で机上訓練とした。

## 項目VII 学生募集

### 総括

入学停止のため学生募集活動は実施していない。

#### 課題及び今後の改善方策

特になし

#### 学校関係者評価委員会からの意見

特になし

#### 小項目 VII-1

高等学校等接続する機関に対する情報提供等の取組みを行っているか。

■自己評価: \_\_\_\_\_ ■学校関係者評価: \_\_\_\_\_

■コメント: 特になし

#### 小項目 VII-2

学生募集活動において、資格取得・就職状況等の情報は正確に伝えられているか。

■自己評価: \_\_\_\_\_ ■学校関係者評価: \_\_\_\_\_

■コメント: 特になし

## 項目Ⅷ 財務

#### 総括

中長期的な計画が示され、示された収支から安定していると考える。

教育事業の方針を基に、各科から希望を出して予算が立てられており、各科の希望を取り入れてもらっている。予算と決算については管理部門で確認がなされている。

監査は定期的に受けており収支は問題ない。

#### 課題及び今後の改善方策

適正な収支計画による学校運営の継続を行う。

#### 学校関係者評価委員会からの意見

特になし

#### 小項目 VIII-1

中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか。

■自己評価: S ■学校関係者評価: 適正

■コメント: 中長期的な計画が示され、示された収支から安定していると考える。

#### 小項目 VIII-2

予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか。

■自己評価: S ■学校関係者評価: 適正

■コメント: 予算は事業計画と本校の方針に従い、各科からも希望を出している。学校の予算は

本部で集約され、本校の予算が立案されている。

決算の管理は管理部門で確認されており、会計監査も受けている。

#### 小項目 VIII-3

財務について会計監査が適正に行われているか。

■自己評価: S ■学校関係者評価: 適正

■コメント

財務の会計監査は実施されており、収支に問題はない。

## 項目Ⅸ 法令等の遵守

#### 総括

法令、設置基準に基づき、必要に応じて報告・届出を行っている。また、自己点検・自己評価を行い、教育水準の向上に努めている。

ハラスメント防止策として、ハラスメント防止規程が示され、12月には撲滅月間として啓蒙活動が行われた。毎年ハラスメントに関するアンケート調査が実施され、その結果は全職員に配布されている。

個人情報に関しては、学校で作成しているガイドラインを学生にも提示して説明し、実習前に実習施設に個人情報保護の誓約書を提出している。実習開始前や必要時 SNS へ個人情報を挙げてしまった事例などを学生に伝えて予防に努めた。学生・教員のインシデントは発生していない。卒業時には臨地実習で知りえた個人情報について卒業後も秘密を洩らさないことを説明して誓約書をとっている。個人情報が記載された資料の管理は、梱包して処分されており、情報管理に努めている。職員の入職と退職の際に、職務中に知り得た情報の保護について、誓約書を交わしている。

#### 課題及び今後の改善方策

継続して、法令、設置基準に基づいた報告・届出を行うとともに、法令等の遵守に努める。

#### 学校関係者評価委員会からの意見

特になし

#### 小項目 IX-1

法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか。

■自己評価: S ■学校関係者評価: 適正

■コメント: 法令、設置基準に基づき、必要に応じて報告・届出を行っている。また、自己点検・自己評価を実施しており、適正な運営はできている。

#### 小項目 IX-2

個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか。

■自己評価: S ■学校関係者評価: 適正

- コメント:教職員、学生ともに個人情報保護のガイドラインに則り、個人情報保護に努めており、学生、教員のインシデントは発生していない。

## 項目X 社会貢献、地域貢献

---

### 総括

学校施設は関連施設の研修や会議に使用できるようにしているが、COVID-19 の感染拡大の影響で、感染が落ち着いた11月～12月のみとなった。

ボランティアに関しては、働きながらの学生であるため、参加は難しいが、ボランティアの募集がある際は学生に呼び掛けを行っている。

### 課題及び今後の改善方策

学生のボランティア活動の把握と、ボランティアの募集があれば、積極的に奨励する。

### 学校関係者評価委員会からの意見

特になし

---

### 小項目 X-1

学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか。

■自己評価: A      ■学校関係者評価: 適正

■コメント: 学校施設は関連施設の研修や会議で使用できるようにしている。

### 小項目 X-2

学生のボランティア活動を奨励しているか。

■自己評価: A      ■学校関係者評価: 適正

■コメント: 年度初めの個人面談でボランティア活動の状況把握をしている。ボランティアの募集があれば、学生にも伝える。